

【西区】令和2年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年9月4日 15時57分 ～ 17時24分
場 所	西区役所4階4A会議室
出席者	<p>【座長】清水富雄議員</p> <p>【議員：2名】清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：16名】寺岡洋志区長、松井達也副区長、宮川淳一消防署長、玉崎悟福祉保健センター長、小黒福祉保健センター担当部長、川北好伸土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和元年度 個性ある区づくり推進費決算状況について 2 令和2年度 個性ある区づくり推進費に係る事業見直しについて 3 令和2年度 西区主要事業の進捗状況について 4 令和3年度 西区予算編成の基本的な考え方(案)について 5 西区における開発動向等について 6 西区役所における新型コロナウイルス感染症への対応
発言の 要 旨	<p>【令和元年度 個性ある区づくり推進費決算状況について】</p> <p>【令和2年度 個性ある区づくり推進費に係る事業見直しについて】</p> <p>【令和2年度 西区主要事業の進捗状況について】</p> <p>【令和3年度 西区予算編成の基本的な考え方(案)について】</p> <p><令和2年度 個性ある区づくり推進費に係る事業見直し></p> <p>清水議員：事業見直しの資料にある区民まつりや虫の音を聞く会の中などが記載されているが、それぞれの事業への影響額はどの程度なのか。また、その財源をどのように活用するのか。</p> <p>寺岡区長：区民まつりが570万円、虫の音を聞く会が173万円、横浜かもんやま能が130万円、これらを含め、26事業、総額1,648万円の見直しを行った。これに、入札残等の310万円を加えた1,958万円を財源として、新型コロナウイルス感染症対策を実施する。具体的な取組として、コロナ禍に対応した新たな形のにぎわい創出事業の実施、Web会議環境等の整備、区庁舎や区民利用施設における感染症対策等を行う。</p> <p>荻原議員：GoTo商店街事業の具体的な内容はどのようなものか。</p> <p>寺岡区長：国の事業に合わせた取組を想定しているが、国の事業がはっきりしていない状況なので、具体的な内容は今後検討していく。</p>

<「にこやか しあわせ 暮らしのまちプラン」の推進>

荻原議員：広報・啓発にある出張形式の授業について、誰がどこに出張して、どのような内容の授業を行うのか。

内田福祉保健課長：当課の職員が講師として小学校に出張し、総合学習の時間等にこども向けのにこまちプランのパンフレットを使って授業をしている。授業では、自分にできることを紙に書いてもらい、それを壁に張り出して、自分たちに何ができるのかを考えてもらうといった内容のカリキュラムになっている。

荻原議員：地域づくり大学校の講座について、Web会議等のオンラインシステムの活用とあるが、Zoom等を活用するということか。

村上区政推進課長：Zoom等を活用して研修会場外からも受講できるようにすることを検討している。

<障害のある人も住みやすいまちづくり事業>

荻原議員：新型コロナウイルス感染症の影響で作業所製品の販売機会が減少していることは私も把握している。その対応として、事務作業の委託をしているとあるが、具体的には、どのような作業内容なのか。また、障害福祉関係情報冊子「こんぱす」を活用して、販路を拡げるといったことも考えられるのではないか。

高橋高齢・障害支援課長：例えば、当課が発注した案件を例に挙げると、資料の修正作業として、修正用のゴム印を押すといった軽作業を委託している。「こんぱす」は、イベント等の中止が相次ぎ、配布が進んでいないが、この状況を逆手に取り、作業所製品の発注につながるような配布方法を検討したい。

清水議員：障害者生活体験事業は、新規事業ということもあり、ある程度の需要は見込んでいたと思うが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、実際の申込みはどのような状況になっているのか。

高橋高齢・障害支援課長：宿泊での利用を想定した事業だが、どのような環境なのかを見に来る方、日中のみ滞在する方が多く、初めから宿泊体験をするという方は少なかった。そのため、8月の実施においては、新型コロナウイルス感染症の関係で利用と利用の間に消毒作業の時間を設けるという制約があったにもかかわらず、部屋の運用には余裕があった。今後、利用者が体験を重ねる中で徐々に日数を延ばしていくという運用を考えている。

荻原議員：障害者生活体験事業の実施時期は8月と1月だが、感染症対策として換気を行う場合、室温管理が難しくなる。もっと気候の良い時期に、実施時期を変更した方がいいのではないか。

高橋高齢・障害支援課長：今年度分は、既に対象者や関係者と日程を調整しており、日程の変更は困難な状況となっている。ただし、次年度については、より良い時期を検討していきたい。

<子育て支援の推進>

清水議員：区が実施している事業と直接繋がる話ではないが、保育所等に関連して、西区内の保育に関わる現状、ニーズの変化などについて、大枠で構わないので、状況を教えてほしい。

津久井学校連携・こども担当課長：西区の特徴として、未だ人口が増加している状況もあり、6歳以下の未就学児童が増加している。それに伴い、過去、数施設しかなかった保育園も、公立と民間を合わせて37施設に増加している。また、出生数に占める第1子の割合が高い、子どもが増えてくると区外に転居するといった傾向があり、人口の流入・流出とも相関関係が見られる。

清水議員：実際の保育需要は、区と局でどのように把握し、保育園の整備等に繋げているのか。

津久井学校連携・こども担当課長：基本的には、区への保育園の入所申込で保育需要は把握している。また、駅の近くやみなとみらい21地区は未就学児が多いといった町ごとの特徴も把握し、整備等の判断材料にしている。

<地域資源を活用したまちの回遊性向上事業>

荻原議員：東横線廃線跡地未供用区間にプランターを設置し、電車からの眺めを改善したということだが、今後の展開は何かあるのか。

村上区政推進課長：来年の東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成等に活用していきたい。具体的な内容はこれから検討する。なお、活用にあたっては、安全性の点を含め、課題整理が必要。

清水議員：今回、環境改善を行った三菱ドック踏切通路は、みなとみらい21地区と既成市街地を結ぶ貴重な動線であるということのほか、西区にとって歴史の詰まった場所でもあるので、多くの方に訪ねていただけるようになるといい。

また、現在開催されているトリエンナーレや高島町のBankART Stationなど、様々な事業が連携して、結ばれていくように取り組んでほしい。

村上区政推進課長：BankART Stationにおいては、9月11日からトリエンナーレ関連イベントが開始される。事業の連携については、西区としても取り組んでいきたい。

荻原議員：区内在勤者向けのリーフレットについて、例えば、西区内の隠れ家的な商店やレストランの情報を掲載し、積極的に宣伝するとい

った活用方法は考えられるか。また、ベイバイクや商店街スタンプラリーなど様々な事業について個別に広報をしていると思うが、これらを連携したら、より充実した情報誌ができあがると思うが、そういったことは可能か。

村上区政推進課長：リーフレットにデジタル観光マップのQRコードを掲載している。デジタル観光マップでは、区内の名店紹介のほか、商店街、ベイバイク、食べきり協力店など、様々な情報を掲載しているので、このマップを入口として、区内の様々な場所に足を運んでもらえればと考えている。また、デジタル観光マップの内容を更に充実させていくことが、西区の情報発信に繋がっていくと考えている。

<商店街及び「まち」のにぎわい創出事業>

荻原議員：「オウチで西区商店街！」の参加店舗はどのように募集しているのか。また、実感としては、利用者側の認知度をもっと上げていく必要がある。感染防止と経済振興を両輪で回していくと言う意味で重要な取組なので、自分の立場からも支えていきたいと思っている。また、行政としてもしっかりと支えてもらいたい。

西野地域振興課長：店舗向けには、経済的な支援に関わる情報を提供する際やスタンプラリー事業への協力依頼を行う際などに事業への参画をお願いしている。また、利用者向けには、広報よこはまやインスタグラム等の広報媒体のほか、スタンプラリー等の別の事業を実施する際に合わせてPRをしていく。

清水議員：商店街に関連する内容として、以前、滋賀県大津市の交差点で多数の保育園児が交通事故に巻き込まれ、それを機に市内全域の危険な交差点を点検するということになり、西区においても、危険箇所の調査が行われ、その中で5商店街にある各交差点も対応が必要な交差点とされている。

この部分に関して、しっかりと対応し、商店街のPRにあたって、安全な商店街という要素も加えたらいいのではないか。また、車止めには設置基準等はあるのか。

森土木事務所副所長：既に車止めが設置されている交差点もあるが、商店街が独自に設置したもので高さが低いといった課題がある。そこで、商店街の交差点については、先行的に車止めを設置することを考えている。

基本的に、車止めは2m弱の間隔で設置している。厳密な決まりはなく、設置場所に合わせて土木事務所の判断で設置している。引き続き、西区全体の安全施設等に関する調整を進めていく。

<西区の緑化と地域のつながり形成推進事業>

清水議員：藤の花再生やゴーヤによる緑のカーテンについて、実際、花の手入れやゴーヤを育てるのは難しいものなのか。

森土木事務所副所長：藤の花については、管理が難しいと認識している。今回の藤の花再生については、藤の手入れを熟知している講師を選定しており、現在のところ講師から助言をもらいながら順調に進んでいる。

村上区政推進課長：ゴーヤについては、種から育てる場合は難しい部分があるが、苗の状態配布をしているため、比較的容易に育てることができると考えている。

荻原議員：花植えを委託で実施した7公園と花苗を配布した11の公園愛護会について、資料があれば提供してほしい。

森土木事務所副所長：資料を用意し、後日改めて提供する。

<地域防災活動推進事業>

荻原議員：防災関連の資料として、各防災拠点に感染症対策として順次整備していく物品の一覧、各防災拠点の備蓄庫に保管されている既存の備蓄品の一覧、及びJ R横浜タワーと締結した帰宅困難者一時滞在施設に関する協定の3点を提供してほしい。

近藤総務課長：資料を用意し、後日改めて提供する。

清水議員：J R横浜タワーとは、防災に関わる協定を締結するなど、良好な関係が構築できているのはとてもいいこと。また、J R横浜タワーの12階には無料で利用できる素晴らしい屋上庭園があり、西区の新たな観光スポットとしても期待している。J R横浜タワーも含め、様々な企業と良好な関係を築き、区民サービスの向上に繋げてもらいたい。

寺岡区長：区内企業との連携強化は、今後も積極的に取り組んでいく。

【西区における開発動向等について】

【西区役所における新型コロナウイルス感染症への対応】

<西区における開発動向等について>

清水議員：伊勢町公舎跡地の公園拡張整備の中で消防団の器具置き場が設置されるということで、これ自体はとてもいいことだが、西区内の消防団が必要とする器具置き場は全て揃うことになるのか。また、消防団の数や器具置き場の箇所数に関する資料を提供してほしい。

	<p>宮川消防署長：消防団の器具置き場は全て揃う。今後は、トイレの設置など環境整備を進めていくことになる。消防団の数、及び器具庫の箇所数については、資料を用意し、後日改めて提供する。</p> <p>清水議員：野毛山公園プール跡地公園整備について、現在の進捗状況を教えてほしい。</p> <p>村上区政推進課長：現在、環境創造局において、プランの検討をしていると聞いている。地域の方の関心が高いところなので、地域の方の意見を反映できる機会を作るよう、引き続き局に働きかけていきたい。</p> <p>＜西区役所における新型コロナウイルス感染症への対応＞</p> <p>荻原議員：夜の街対策で対象店舗数はどの程度なのか。また、具体的にどのような取組なのか。</p> <p>内田福祉保健課長：対象店舗数は、横浜駅西口のバー、スナック、キャバレー等で、計100店舗。具体的な取組内容は、新型コロナウイルス感染症に関わる情報提供と啓発。また、健康福祉局と協力し希望する店舗に対してPCR検査が実施できるという案内をしている。</p> <p>荻原議員：この接待を伴う飲食店向けのPCR検査の実績はどの程度か。また、今後の対応については、どのように考えているのか。</p> <p>内田福祉保健課長：この取組は、健康福祉局と神奈川・西・中の3区が協力して実施しており、対象は3区で計800店舗、そのうち問合せは10店舗、実際にPCR検査を実施したのは5店舗で、5店舗のうち1店舗が西区という状況になっている。今後も引き続き、希望する店舗にPCR検査を実施していく。</p>
備 考	